



過ぎ去ったものは、 すべて紙のうえに

川上未映子

子どもの頃、とても狭い家に住んでいた。家族五人であんな部屋でどうやって生活していたのか、まったく不思議でしようがない。そこにいたのは人間だけじゃない。家具もあったし、荷物だってそれなりにあったはずなのだ。体の小さな子どもだったとはいえ、全員で五人である。どうしていたのか、何も思いだせない。

そんなだから、自分の部屋というものに漠然とした憧れがあった。というより、廊下や複数の部屋がある家、というものに。図工の授業で何でも好きな絵を描いていいと言われると、みんなは花やお姫様や動物やヒーローなどを描くのだけれど、わたしはいつも部屋だった。とはいえ、画用紙に何もないとこから描き始

めるのではなくて、新聞と一緒に届けられる賃貸住宅広告のチラシの間取りの絵に家具を描き込んでいく、というのがお気に入りだった。

ここがわたしの部屋。ベッドと机を描き込む。こっちは姉の、あっちは弟の。そしてこの真ん中が、噂のリビングというやつだ。最初からすべて自分で描いたのでは、それはどこまでいっても空想にすぎない。どこかにじっさいに存在している家の間取りにかかわることで、希望に繋がるようなリアリティを必死でたくり寄せていたような気がする。落書きだけど、でもこれは百パーセントの嘘ではないんだ、というように。

それから月日は流れ、一軒家を購入し、大量の荷物や家具とともに暮らしているわたしを子どもの頃のわたしが知ったらどう思うだろう。廊下もあって、使っていない部屋まである。家のはしっこでチラシの間取りにああでもない、こうでもないとせつせと描き込んでいたわたしが見たら、きっと驚くだろうと思う。そして「住みたいような家に住めて、よかったねえ」と言ってくれるだろうか。でも、これがよくわからない。

どこからどうみても現実の家に、これ



かわかみ・みえこ●作家・詩人。大阪府生まれ。2008年『乳と卵』で第138回芥川賞を受賞。09年詩集『先端で、さすわ さされるわ そらええわ』で第14回中原中也賞を受賞。13年には第43回高見順賞を『水瓶』で受賞。同年に『愛の夢とか』で第49回谷崎潤一郎賞を受賞。今年に入り第1回渡辺淳一文学賞を『あこがれ』で受賞。

また現実の家具やカーテンや絨毯を準備して、あれこれ時間をかけて作りあげたはずなのに、なぜか、どうも、紙のうえの間取りに描き込んでいたときの、あの沸き立つような喜びや現実味が感じられないのだ。わたしの胸の中にあるあの家や部屋と、この家や部屋は、繋がっていないのかもしれない。

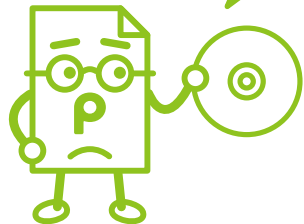
今でも、歩いている最中に不動産屋があると立ち止まって、張り出されているすべての間取りを見てしまう。

もうあの家族でひとつの家に住むことなど二度とないのに、ぜんぶ終わってしまった時間なのに、気がつけば、ここはわたしの部屋、こっちは姉、そっちは弟、ここには大きな窓があって――みたいなことをつい考えてしまっ、苦笑してしまう。過ぎ去っても二度とは戻ってこない日々、そしてわたしの思い出は、どうやら、住んだことはもちろん足を踏み入れたこともない架空の部屋のなかに、降り立ったこともない紙のうえに、あるみたいだ。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

古紙リサイクルは、デリケート。

CDやビニールなどが混ざるだけで、うまくいかなくなるリサイクル。古紙の質を上げて、良い再生紙をつくるためには、これらのリサイクルをジャマしてしまう物きんきひん(禁忌品)をきちんと取り除くことが大切なんです。レシートや写真などのように、紙製品の中にも、混ざるとリサイクルのジャマになる物があるので、ご注意を。



- 紙のリサイクルをジャマする物(禁忌品)の一例
- ナイロン袋 ●CD
 - 写真 ●カーボン紙
 - レシート ●圧着はがき
 - フィルム ●クリップ
 - 匂いのついた紙 等

紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、
「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。 <http://kamitsubu.com/>

今回は9月1日号、青山文平さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Shiro Miyake